



【お父さんの影響力】

本日聖書箇所：使徒の働き10章1-8節/暗唱聖句：箴言4章1節

説教者：鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！一週間の間もお変わりなくみんな元気でしたか。

本日は2022年父の日感謝礼拝として捧げる時間です。我らに、この教会にお父さんの存在を与えてくださり、家族のため、ともに信仰の生活をし、ともに奉仕するように導いてくださった神様に感謝します。特に父であるみなさん上にも今日も主イエスキリストからの慰めと恵みの中で元気で日々日々守られますよう御名によって祝福します。アーメン！

<父の日の始まり>

1909年にアメリカ・ワシントン州スポケーンのソノラ・スマート・ドッド (Sonora Smart Dodd) という娘さんは、男手1つで自分を育ててくれた父を讃えて、教会の牧師にお願いして父の誕生月である6月に礼拝をしてもらったことがきっかけとされています。彼女が幼い頃南北戦争が勃発。父ウィリアムが召集され、彼女を含む子供6人は母親が育てることになるが、母親は過労が元でウィリアムの復員後、まもなく召されました。以来男手1つで育てられたが、父ウィリアムは子供達が皆成人になった後、召され、最初の父の日の祝典は、その翌年の1910年6月19日にスポケーンで行われるようになりました。当時すでに母の日が始まっていたため、彼女は父の日もあるべきだと思い、「母の日のように父に感謝する日を」と牧師協会へ嘆願したことにより、1916年、アメリカ合衆国第28代大統領ウッドロー・ウィルソンは、スポケーンを訪れて父の日の演説を行い、これにより父の日が広がるようになりました。そして、50年後1966年、アメリカ合衆国第36代大統領リンドン・ジョンソンは、父の日を称賛する大統領告示を発し、6月の第3日曜日を父の日に定められ、1972年にアメリカでは正式に国の記念日に制定されました。母の日の花がカーネーションなのに対し、父の日の花はバラ(存命中の父に赤バラ・故人父親には白いバラ)でした。娘ソノラ・スマート・ドッドが、父の日に父親の墓前(ぼぜん)に白いバラを供えたからとされています。日本でも、それに従い、6月第3週日曜日は父の日となり、日本では別に決まっているわけではないですが、赤いバラか、家族の愛情と尊敬を表す意味として、黄色のバラを贈るようになってきました。

ちょうど来週日曜日が父の日となりますので、これから一週間の時間があるので、お父さんにどう感謝を表し、伝えれば良いのか考えながら準備したら、いかがでしょうか。是非家族で、牧場でお父さんに感謝と愛の心を伝え、あらわす幸いな“父の日”となりますように！

<1. 家族の中欠かせない大切な存在お父さん！>

以前も紹介した事がありますが、お父さんの存在に対してこのような話があります。

<タイトル：お父さん！>

4歳の時、お父さんは何でもできると思った。

7歳の時、お父さんは何でも知っている天才だと思った。

8歳の時、お父さんと先生、どちがもっとえらい存在なのか考えた。

12歳の時、お父さんは実に知らないことが多いんだなと思い始めた。

15歳の時、お父さんの考え方が古い人だと距離を置き始めた。

25歳の時、お父さんを理解はするが、お父さんの世代はもう過ぎ去ったと思った。

30歳の時、子どもができたら、少しお父さんの気持ちが分かるようになった。

40歳の時、何かを決める前にお父さんの意見をも聞いて見たい。

50歳の時、お父さんが恋しい！会いたい！

60歳の時、お父さんは自分よりもはるかに立派な人だった。素晴らしい存在だった。



お父さんは死んだ後にも、いつまでも久しくお言葉が思い出される人だ。いやお父さんは生きている時より、死んだ後になってからこそ、さらに恋しくなり大きな存在だったことが分かるようになる。

お父さんは決して無関心の人ではない。お父さんが無関心の人のように見えるのは、体面と、プライドと子供たちへのすまない気持ちがまざってすぐにおもてに出せないからだ。

お父さんの微笑みは母のそれより2倍も濃い。お父さんは家では大人のふりをするが、自分の友に会うと少年になる。

お父さんは母の前ですら祈りもしないが、一人になると運転の時でも、大声で祈り、絶対者に叫びながら家族のため助けを求める存在だ。お父さんが一番の幸せを感じる時は、子供から尊敬していると言われた時であり、家族から愛していると言われる時である。お父さんが一番悲しい時は、家族の中でお父さんを恥ずかしがる時やいない方が良いのになと感じられる時である。その時、お父さんは心を痛みながら泣く。お父さん！いつもかわらない。いつもその場において支えてくれる大きな岩のような名前。その偉大な素晴らしい名はお父さん！！

聖書には600回以上父という言葉が記されていますが、その中で神の知恵書と呼ばれる箴言では続けて父親の事の大切さと影響について強調しつつ教えて下さっている内容でもあります。箴言4章1節では「子どもたちよ、父の訓戒に聞き従え。耳を傾け、悟りを得よ。」、箴言6章20節「わが子よ、あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教えを捨ててはならない。」とも書かれています。

箴言13章1節「知恵のある子は父の訓戒に聞き、嘲(あざけ)る者は叱責を聞かない。」

箴言23章22節「あなたを生んだ父の言うことを聞け。あなたの母が年老いても蔑(さげ)んではない。」

箴言30章17節「自分の父をあざけり、母への従順をさげすむ目は、谷の鳥（からす）にえぐり取られ、鷲の子に食われる。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさんはこの内容を聞きながら、お父さんについてどう思われますか。子供たちは大きくなればなるほど、お父さんの話を聞こうとせず、無視する傾向があります。いつの間にか自分がお父さんよりよく知っている、よくできると思いこんでいるからではないでしょうか。お父さんのアドバイスはもう要らないと、もう古い話、つまらない話だろうと断定しているかも知れません。しかし、お父さんを尊敬し、尊重し、お父さんの話をとりあえず大切に聞き取り、従おうとする子供の人生は必ず祝福され、智恵ある者として歩めることを教えて下さっています。

愛する信仰の家族のみなさん!幸いな家庭、祝福される家庭はただ与えられるのではなく、お父さんが家庭でどうするかにかかっていることが分かります。結婚すると自動的に家庭が幸せになるということではなく、家庭内での一人一人が特にお父さんが家庭の幸福と祝福のために努力すべきであります。なぜでしょうか。家族の中でも家庭に一番、影響を与えたとしたら、当然それはお父さんの存在だからです。母とその愛も欠かせない存在であり、すばらしい存在ですが、子供たちにとって父の愛は母の愛とはまた別だと思えます。

こんにち社会と家庭はさまざまな問題にかかわっています。その中で多くはいつの間にかに家庭の中で仕事やさまざまなことで忙しく、お父さんが家族の中に不在になってしまったこととともに、父の役割と機能を知らない父親を通して子供の役割と機能を学ばされなかった子供たち!こういった悪循環によって、数多くの事件や問題が家庭の中で起こされているのではないかとつくづく思います。心理学者であるヘンリー・ビラーという博士はこう指摘しました。

「今日、父たちを家族に戻せなければならない。そして、父たちに一番大切なのは父としての精神と自信をもう一度、取り戻す事が家庭の中でもっとも大切である。」

良くても、悪くても父親の影響力は子々孫々にまで続くものです。お父さんの存在は自分の人生に決して欠かせない大きな存在であることを否定することはできません。ですから、お父さんの存在はとても大切な存在です。

<2. 曲がった父親のプレッシャーからの回復>

今日、男性たち、特に、お父さんたちはそうするために断ち切らなければならない偏見とか誤解があると思います。それが今日男性も含めて特に父親たちに変なプレッシャーが与えもっと肩を重くさせています。小さい時から知らないうちに男性たちであるならば、父親だったら、みんな身につけられたことでしたが、それに却って苦しめさせて、真の男性、特に父の割り当てられた役を果たせないようにさせる原因ともなっていると思います。

例え、父親はいつも強い者だ!父親は泣いてはいけない!お父さんは必ず成功しなければならない。お父さんはお金をたくさんもうけないと無能な父だ。とか、“お父さんは自分の過ちを認めてはいけない。そうすると父の権威がなくなるから”とか“父親はすべて自分が決めなければいけない。妻や子供たちの話を聞いてあげたり、助けてもらうのは父親の男性らしさを放棄することなんだ。”とか、“男性は女性より上だ!”とか“愛情を表現するのは女性たちがする者”などこういうふう歪曲された変なプライド、体面がかえって夫婦や家族の幸せを妨げる壁となり、今日の男性たち、お父さんたちを押し寄せられている大きなプレッシャーとなっているところはありませんか。

もしも、お父さんたちが間違った時には正直に家族に、神様にもその過ちを認める姿こそ、本当の勇氣ある男性らしさ、権威ある父の姿だと思えます。お父さんの真の権威と力は完璧から来るのではなく、裏を持ってない正直さ、真実さから来る事を忘れないようにしましょう。

変なプライド、プレッシャーをもうすてて、助けが必要な時は大胆に“助けて、祈ってくれないか。”と言えるお父さん!最近心配していることは何ですか。家族に伝え、共に祈れるようにさせて下さい。お父さんだけ一方的ではなく、家族がお互いに愛を表し合い、支え合うみなさんの家族となりますように心から願っていることではないでしょうか。

【良い父親になるための十戒】

- ①父親の価値観を教える：子どもの人生は、父親の生き方を通して決定的な影響を受ける。
子どもたちに何が大切で、優先なのかを教えられる親になる
- ②子どもたちを一日一回以上抱きしめ、愛していると告白する：父親の体温を子どもたちに感じさせる。いつでも子どもたちに愛していると言う。愛される子どもが愛することができる。
- ③子供たちとした約束は必ず守る：父親と子ども間の信頼が崩れると、愛も崩れる。父親を信頼出来なければ、だれも信頼することが難しくなる。
- ④妻と幸せな姿を見せる：両親が愛し合う姿を見て育った娘は、男性から愛を受け、息子は情勢を愛することが出来る。両親がする通りに子どもたちは生きる。
- ⑤子どもたちを褒め、励ます：ほめれば成長し、励ますともっと強くなる。足りないと感じられる時、ほめよう。
子どもたちに褒め言葉より良い訓練はない。
- ⑥子どもたちと共に時間を過ごす：助言が先にならず、子どもたちの話を聞いたり、一緒に子どもとふたりの時間を過ごしてあげる、自分の側に立ってくれる父親を求めている。

- ⑦成熟した信仰者として模範を見せる：父親を通して神を経験する。これが神様が家庭に与えられた奥義である。
主イエスに似ていく成熟した信仰者として生活をするように努力を尽す。
- ⑧家庭のビジョンを共に分かち合う：家庭のビジョンを立て、子どもたちも共に期待と夢を描き、持つようにする。
- ⑨親と老人を敬う姿を見せる：年長者を大事にせず、親を敬わない人は、神様の御前でも、世の中でも成功できない。
敬語と挨拶を正しく教える。
- ⑩他人へのマーナと倫理を教える：他人を配慮することのできる心と他人に迷惑をかけない態度を教える。
幼い時から秩序を守る訓練をする。

愛するみなさん！家庭は愛の源であり、祝福の源になるべきです。しかし、その家庭の中愛と祝福の根源地がどこからなのかとすると、聖書ではお父さんがどうするかによって湧き出る祝福の通路となり、神から与えられた家庭が愛と祝福に満ち溢れるようになれることを聖書は強調し、教えて下さっています。

<3. お父さんは家庭の神の祝福の通路となる存在：コルネリウス>

今日の聖書本文にはすばらしく神様の祝福をいただき、家族や周りにまでも流していたコルネリウスというあるお父さんの姿について記録されています。彼は決して選ばれたイスラエル人でもない、ローマの人だったのに、どうやって神様の祝福を受け、家族に、周りにまで流す事が出来たのでしょうか。

①コルネリウスは謙遜に神を恐れる信仰を保っている祈りのお父さんでした(2節)

今日みなさんと考えてみたいことは神様を信じ、恐れていたコルネリウスという人の信仰についてです。彼はイスラエル人ではない異邦人でした。つまり、彼はクリスチャンの家庭で育てられたこともなく、聖書についても全然聞いたことがなかったかも知れません。当然、周りには神様を信じていた人もほとんどいなかったかも知れません。ところが、今日本文の2節「彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ(かしこみ)、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。」を見て見ると、このコルネリウスとお父さんは「彼は神の前でいつも敬虔な人で、神を恐れ(かしこみ)でいた」人であったと記録されています。

コルネリウスはローマ軍隊の指揮官でした。少なくとも100人以上の部下をもっている軍隊の隊長(たいちょう)の一人として紹介されています。今日は100人ほどの軍人を持っていることは、部隊の中でそれほど高い地位の人ではないかも知れませんが、当時ローマからパレスティンに派遣されている軍隊の百人隊長くらいの身分と立場は、相当の高い地位の人だったのに間違いありません。コルネリウスは軍人なので、自分たちの頭の戦略や部隊の団結しつつ持っているスキルと力で戦い、自分の命を守り、ここまで勝利して来た者なのに、人の限界と弱さを認めつつ、神を求め、信じていたとても謙遜な人であり、日頃その神様の存在を信じ、意識しつつ生きていた敬虔な人でした。

特に、注目すべきところは、ローマの自分たちが征服した、つまり被征服地(ひせいふくち)であるイスラエルという国の民が信じていた神様を信じていたわけであります。みなさん、一般的には、征服した国の人たちが征服されている人たちに、自分たちの持っている宗教や文化などを持ち込み強制的に、信じさせ、征服された人々が仕方なく、征服した人たちの宗教や文化に従うのが一般的ではないでしょうか。当時、ローマ帝国はイスラエルを含め、征服した国々の宗教や文化などわりと、自由を与えたとしても、今ローマを体表して、ローマの皇帝を神のような存在として拝んでいた当時の状況の中で、イスラエルに派遣されていた百人隊長が、自分たちの力で征服した国の人々が信じている神様を信じるということは決してあり得ない出来事であり、それだけでも軍人たちのプライドが傷つけられ、自分にいろいろな面において損や害を受けられそうだったのに関わらず、彼は、イスラエルの人々が信じている神様、旧約聖書に記されている神様こそ、全てをお造りになされた真の神様であられるのに間違いないと確信し、信じていたことが分かります！

コルネリウスは、どれほど謙遜で、敬虔な信仰を持っていたのか分かる言葉があります！(①神を恐れる信仰)

父コルネリウスはただ、神様を信じたのだけでなく、神を恐れ(かしこみ)つつ信じていた人でした！

勇士であり、戦士である、部隊の指揮官であったコルネリウスでしたが、まことに偏見と頑なな心のない人でした！むしろ、今までコルネリウスは、数えきれないほど多くの戦争場で、生死(せいし)の分かれ道の中血まみれの残酷な戦いの現場の経験を通して、多くの部下や大事にして来た人々を失う経験、救われた経験をしたからこそ、人はいつでも死なれることや人生の生きる意味、死ぬ事に対する心の準備をしておかなければならない、この地上は永遠のところではなく、いつかはみんな一度死ぬことを認め、分かっていたのではないのでしょうか。

その中、いつも戦いの前に、絶対者なる神様の存在を求め、祈っていたかもしれません。

そして、イスラエルで真の神様について聖書を通して、周りのイスラエルの人々の証しと証言の通り、信じていたのではないのでしょうか。彼は人の生死がその神の御手の中にただ許されている限り、この地上で生かされている者として、信じ、すべてを知っておられ、見つめておられる神様の前でひたすら恐れながら、日々謙遜に、敬虔に信じて従っていたことが分かります！

ヨブ記37章24節「だから、人々は神を恐れなければならない。神は心に知恵ある者を顧みられないだろうか。」

詩篇67篇7節「神が私たちに祝福してくださり地の果てのすべての者が、神を恐れますように。」

伝道者の書3章14節「私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。それに何かをつけ加えることも、それに何かを取り去ることもできない。人が神の御前で恐れるようになるため、神はそうにされたのだ。」

伝道者の書12章13節「結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」

御言葉通り、真の神を信じ、神の御前で的人生であることを覚え、謙遜で、敬虔な信仰を持っている者は、いつも心から神を恐れつつ、神を信じます！

イエス様が言われたように、コルネリウスは自分の高い社会的身分にもかかわらず、神という存在の前では心のまずしさを持っていた者でした。彼がどれだけ神様の御前で謙遜な人だったのか推し量ることができる部分です。

神様は、聖書に神を恐れかしこむ信仰をコルネリウスはもっていたと評価して下さっています。

なので、彼はローマ人でありながらも、聖書に敬虔で、謙遜な信仰を持った者として、聖書に記されるようになったと信じます！人が、神を恐れる信仰をしっかりと持っている時こそ、心から今も生きておられる神様の御前で謙遜になり、日々神様の御前で今生かされている人生として、日々敬虔に過ごすことになると思います！そのような人こそ、罪と妥協せず、罪から離れ、謙遜に神様に頼りつつ、御言葉通り従う生活が可能になるのではないのでしょうか。

「②祈ることを大切にす信仰を持ったお父さんコルネリウス」

そして、もう一つ神の前で、コルネリウス、このお父さんがどれほど神を恐れ、謙遜と敬虔な信仰を持っていたのかが分かる言葉があります！彼は、「②祈ることを大切にす信仰」を保っていました(2・3-4節・30-31節)

たまに祈ったり、祈り課題がある時に祈ったのでもありません。

今日本文の2節「彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ(かしこみ)、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。」3-4節にこのお父さんは、一日中祈る時間を決めて、定期的に祈りながら、日々神様と交わり、頼っていた謙遜な信仰を保っていたことが分かります。「3ある日の午後三時ごろ、彼は幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。その御使いは彼のところに来て、「コルネリウス」と呼びかけた。4すると御使いはこう言った。「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上がって覚えられています。」」、30-31節にも、「コルネリウスが言った。「四日前のこの時刻に、私が家で午後3時の祈りをしていますと、なんと、輝いた衣を着た人が私の間に立って、31こう言いました。『コルネリウス。あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられています。』」コルネリウス、このお父さんは、いつも祈りを大切にし、家でも時間を決めて、定期的に祈り続ける人であったことが分かります。

午後3時は、彼がいつも祈っていた時間でした。彼は日常生活において定期的な祈りの時間を持っていたことが分かります。言い換えると、彼はどんなに忙しくても、どんなに昼間が暑くても、家でゆずれない祈る時間を最優先順位に保っていたことが分かります。愛するみなさん！自分のやりたいことをやって、残りの時間、余っている時間に祈ろうとすると、一生神の前で深く祈ることが出来ません！コルネリウスは信じていた神様に力を尽くし、命を尽くし、知性を尽くして、心から神様を愛し、謙遜に神の御心を探り、従おうとする信仰のお父さんだったことが分かります。祈るということは何でしょうか。私は祈りという単語の一番大切な定義は“神様とともにすること、神様の御声を聞く時”だと思えます。ですから、謙遜な信仰を持っている人こそ、とにかく祈り、時間を決めて祈ります！神様と向き合い、神様とともにし、神様と交わりながら、自分に向かう主の御心を探り、主の御声を聞き従おうとします。

みなさんが最近どれだけ、神様に祈るの生活を保っていますか。コルネリウスの祈る姿に注目すべきポイントは、家でよく祈ったということです。きっと家族も、特に子どもたちも、家でよく祈るコルネリウスの背中を見ながら、そして、祈りの素晴らしい答えを家族が共に体験しながら、自然に生きておられる神の存在と力を信じるようになったのではないのでしょうか。教会で共に祈る時ももちろん、大切ですが、家ででも祈る信仰の模範を示し、証し出来るみなさんとなりますように、みなさんの家がいつも神様に向かって窓が開いている状態となりますように！祈ります！！今日みなさんも、家で子どもたちに、祈りの力を体験させて下さい。大切な時に、悩みや問題がある時に、感謝の時に、一日が始まる時に、まず祈り、とにかく祈り、定期的に祈ることを通して、生きておられる神とその偉大な力を実際に体験できる家庭となりますように切にお祈り申し上げます！！

神の祝福と恵みが父親から家族に、子どもたちに流されて行くために、父親のお父さんたちから神様を恐れかしこみ祈る謙遜で、敬虔な信仰をしっかりと持った生き方と模範が、家族、子どもたちにもそのような信仰にもつながるようになるでしょう。それが家族、子どもたちが神の祝福を實際受ける第一の道であると信じます！

愛するクリスチャンプレイズチャーチのお父さんたちであるみなさん！仕事や勉強は真面目に、しっかりと、頑張ってやってほしいのに、信仰の面においては、正直に今日は、神を信じますと言いながら、神の御前で、神様を意識せず、家の中で自分勝手に、適当に神様を信じない人々の生き方と変わりのない生活する人々がどれほど多いのでしょうか。みなさんは家でどんなお父さんですか。みなさんの最近家庭の様子はいかがでしょうか。

今日お父さんたちは、そして親である教会家族の家族みなさんは、心から恐れる信仰をしっかりと持っているのでしょうか。日々生きておられる神様の御前で、みなさんは神様を恐れながら日々神様に頼り、祈っているのでしょうか。

だれより、みなさんの一番身近にいるみなさんのご家族、そして子供たちは、うちの親が、お父さんがいつも神様を意識し、神を恐れる謙遜な信仰をしっかりと保って行っているかどうかよく知っています。結局、家庭の父親として、コルネリウスが保った神の恐れる信仰と實際祈る生活を保つことによって、家族みんながお父さんの信仰の姿を継承し、同じような信仰につながっていたことが分かります！本文2節に、「彼は敬虔な人で、家族全員とともに」と記録されて

います。

愛する信仰の家族のみなさん！信仰の形ではなく、家族全員と共に神を心から恐れかしこみ信じることがどれほど大きな祝福で、幸いなことであるのか分かりません。家族が共に神の御前で礼拝し、共に祈り、共に御言葉を聞き、共に礼拝を捧げることが決して当たり前なことではありません。お父さんが、もしお父さんがいないか、まだ信仰を持って持っていていらっしゃるならば、代わりにお母さんでも、先に信じた者が、家庭の中で、家族に、子どもたちに信仰の模範とならなければなりません！

ですから、家族がみんな心から神を信じない責任はお父さんにあり、親にその責任があることを忘れてはいけません！！

最初は、家のお父さんであるコルネリウスが先に信じ、その信仰の生き方を家で実践したから、家族全員がその信仰と生き方を通して、共に神を信じ、神を恐れかしこみ、祈る信仰を保つようになったのに間違いありません。

<みなさんの家庭も必ず神によって変わり、救われ、祝福されます！>

コルネリウスのように、我らの教会の中でも、イエスキリストを信じる信仰を持ったのは、自分が家族の中ではじめての方々が多くいらっしゃいます。まさに信仰の一世代目の家庭がほとんどです。

だからこそ、今まで聞いたこともなかった聖書の神様について、心から信じる事に相当の時間がかかるかも知れません。忍耐と犠牲が必要だったかも知れません。しかし、みなさん、希望を失わず、必ず、先に信じたみなさんが祈りつつ、しっかり信仰を持って、みなさんが家庭の中で益々変わり、信仰の模範的な存在となれば、家族みんなが共に真の神を信じ、キリストを受け入れ、救われるだけではなく、大いなる神の祝福と恵みにあずかる家庭となる日がやがて来ることを信じます。

神様には我々一人一人、個人だけではなく、一つの家庭を救われ、祝福しようとしておられるご計画があります！

神様は今日もみな様一人一人をいつくしみ深く変わらない永遠の愛を持って愛しておられます。そして、神様はもう一歩すすんで、みなさんを愛しておられるというのは、神様はみなさんの愛する家族をもともに愛しておられ、いつくしみ深く、哀れんで下さっている証拠ではありませんか。みなさんを愛するがゆえに、御子イエスキリストを心に受け入れる信仰による救いを与えて下さった慈愛の父なる神様は、愛するみなさんの家族をも救いへの道に必ず導き、神様の御国を見上げ、ともに歩む家庭となるよう望んでおられるので、そのような祝福と恵みを必ず許して下さいと信じます。

救い主なる神様は、家族の中一人だけではなく、その家族みんなを愛され、家族みんなを救おうとされるお方であることが分かります。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。（使徒の働き 16章 31節）」

主の約束は“あなた”で終わりません。ノアの洪水時代の裁きを定められた神様は、それにもかかわらず、神を信じ、従うノアに救いの箱舟を作ると命じられ、神様はこう語られました。

「あなたとあなたの全家（家族）は箱舟に入りなさい。（創世記 7章 1節）」

信仰の親、信仰の夫、信仰の妻、信仰の子供がいることが決して当たり前なことではありません。ある方には、一生の願いであり、人生の一番望んで、切実に待っていていらっしゃる祈り課題であります。家族のみんなが神を信じ聖書の神の約束通り、救われている家庭は一生神の前で感謝しながら、さらに神を恐れる信仰を保ち、主の御前で謙遜になり、敬虔に生きるようにしましょう。そして、まだずっと忍びながら、その祈りの答えを待っている方々は、あなたを先に信じさせ救って下さった神様が必ず、一人から全家族にも真の神様を知り、信じ救われる時が来る事を信じ、その時が成し遂げられるまで神様の御手に委ねつつ祈り続けながら、まず、家庭の中で、家族に、神を恐れかしこむ謙遜な信仰を保って、まず自身が変わって行く信仰の敬虔な生き方の模範となりますように切に祈ります。

後で 45節～48節まで見ると、御言葉を聞いた全家族、全て集まった人々の上に聖霊の神の賜物が注がれ、ペテロを通して、その場で、みんながイエス・キリストの御名によってバプテスマを受けられたと書かれています。

「48ペテロはコルネリウスたちに命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。」

コルネリウスの家庭はまだ、旧約の神様のみを信じ、はっきりイエスキリストの福音について知らなかったようです。そのため、神は使徒ペテロを送り、コルネリウス含め、全家族と共に、集まっていた全ての人々に神の御子イエスキリストの十字架の救いの御業、復活され、信じる全ての者に神の御救いを、永遠の命を与えて下さる福音を聞かせ、みんな信じ、救われるように神様は働き、導いて下さいました！ハレルヤ！今も生きておられ、すべての者が救われるのを望んでおられる神様が、必ず、祈り続けるみなさんの全家族もキリストを心に受け入れ、洗礼を受け入れる救いの日を許して下さいと信じます。

一世代目には色々覚悟することも、かなりの忍耐も必要かも知れませんが、すでにみなさんを先に信じさせ、神の救いを与えて下さったその神様がみなさんの全家族をも救い、クリスチャンホームとさせて下さることを信じます。

② コルネリウスは隣人の為、愛の実践を惜しまないお父さんでした(2節・4節・22節・31節)

今日本文の2節「彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ(かしこみ)、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。4節「すると御使いはこう言った。「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上がって覚えられています。」22すると、彼らは言った。「正しい人で、神を恐れ、ユダヤの民全体に評判が良い百人隊長コルネリウスが、あなたを自分の家に招いて、あなたから話を聞くようにと、聖なるみ使いから示されました。」31こう言いました。「『コルネリウス。あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられています。』」

もう一つ、信仰から愛の行いを子どもや周りに実践した父コルネリウスだったことが分かります。コルネリウスの家庭

が神様に祝福された理由はまず、父親であるコルネリウスからの信仰と共に、愛の実践が伴われたからであることが分かります。神様から価なしに頂いた愛と恵み、その祝福を、自身と家の家族中だけではなく、隣人に家の門を開き、助けが必要な隣人たちに喜んで分け与え、助けて上げた人であることが分かります。

愛する信仰の家族のみなさん！信仰生活とはいったい何でしょうか。我々が信仰によって生きること、イエス様を信じて生きる事をひと言で言うと、「神様と隣人との愛の関係を保って生きる」ことだとイエス様は教えて下さった通りコルネリウスとその家族は実践していたことが分かります。

ルカの福音書 10章 27節でイエス様はこう言われました。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』。また、『あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい』とあります」です。神への愛、隣人への愛、これがイエス様が強調された一番の大切な神の命令でした。

みなさん！愛するという意味はいったい何でしょうか。愛が持っている本能的な二つで説明できると思います。一つは、愛すると愛する人ともっと一緒にいたくなること、愛する人のためには惜しまずに何でもあげたくなることではないでしょうか。

神様を心から愛し信じる人々は、自身の周りにいる兄弟姉妹、隣人たちを顧みます。自分と家庭に与えられている社会の地位や立場、力、時間、物、お金など全てを用いて人を愛し、人を助け、人々に分かち与える者、その家族こそ、神様がさらに与え、満たして下さる家庭の祝福の秘訣を体験できると信じます。

ルカの福音書 6章 38節「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量ってふところに入れてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」

そしてコルネリオとその家族は、たまたま一度、人を助けたり、救済したのではありません。父コルネリオは自分の持っている信仰、自分の持っている祝福を分け与える人であり、それによってさらに分け与える事が出来る家庭として祝福されました。自分たちに与えられた素朴な祝福を持って回りに助けが必要な人を施していた父親のコルネリオの愛の姿を見た子どもたちや彼の家族も、当然そのような生き方となったはずでしょう。

<4. 父親コルネリオによって受けた家庭の祝福>

何よりも、神様はコルネリウスの信仰と祈りと施しを受け取ってくださって、覚えてくださったと聖書は記録しています。(4・31節) 祈りが聞かれる祝福、私たちの祈りをいつも聞き入れてくださる神様の御力によって、毎日助けられ、天のとびらが開かれる祝福はどれだけ私たちが慕い求めるべき祝福でしょうか。

4節・31節にも「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上がって覚えられています。」と書かれています。これがまさにコルネリオに対する神様の評価でした。神様に認められる信仰！まったく神と関係なく、神を知らなかった彼の人生でしたが、真の神を知り、信じてからは、神の御言葉通りに、神様が命じられた通に従って結果、神に喜ばれ、認められ、コルネリオと全家族がイエスキリストによって洗礼を受け、救われ、さらに大いに用いられ、祝福されました。

この祝福は単なるコルネリウスの家庭の祝福でとどまらず、コルネリウスの家庭を通して、さらに周りの人々とユダヤの民たちも助けられ、イスラエル民族以外のほかの民族と国々に神の宣教が開かれ始めるきっかけとなりました。そしてついに当時世界を支配していたローマの中神の教会が建たされる時に、彼の家族はきっとすばらしい火種と土台となって用いられたはずで、それだけではありません。

そして、AD313年、ローマ皇帝コンスタンティヌス1世のミラノ勅令により、キリスト教が公認され、392年大ローマ帝国がキリスト教を国教(こっきょう)とするまで、始発点となったのに間違いありません。神様の御前で祈りを大事にして敬虔に生き、生きておられ全能なる神様の御前でいつも謙遜に恐れかしこむ信仰を持っていた一人の父親コルネリオを通して、神様は、彼の全家族が救われ、その神様の祝福と愛がその家庭から、流れ出て、町の人々を変え、やがては、主の教会がローマに建てられ、自分の民族が変えられ、世界中に福音が広がる祝福の通路として大いに用いられました。

今日父の日感謝礼拝に集っていらっしゃるクリスチャンプレイズチャーチの全お父さんたちが、コルネリオのように素晴らしい信仰と愛のお父さんたちとなりますように！すべてのお父さんたちがコルネリオのように信仰と愛によって家族を結束させ、導いて、みなさんの全家族と家庭が神に益々祝福される源となりますように切にお祈り申し上げます。みなさんの人生、家庭とすべての我々の家の教会が神の愛と祝福の通路として一層用いられますように！みなさんの信仰と愛を通して、みなさんの周りが変わり救われ、この日本民族が変わり救われますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

<祝福の祈り> (民数記6章24-26節にある御言葉の「あなた」という箇所を「私の家族」と置き換えて祈る。「私の家族」のところに、愛する妻と子どもの名を入れて、毎日、祝福の祈りをしましょう。)

主が私の愛する家族を祝福し、私の家族を守られますように

主が御顔を私の家族に照らし、私の家族を恵まれますように！

主が御顔を私の家族に向け、私の家族に平安を与えられますように！ アーメン！